資料１

# 令和８年度 第２回
# 越谷市立学校適正規模・適正配置審議会

# 越谷市の小中一貫教育について

令和８年１１月５日（木）
越谷市教育委員会　教育センター

# 越谷市小中一貫教育の取組

・第１期　平成27年度～

・第２期　令和２年度～

　　第２期小中一貫教育の成果と課題

・第３期　令和８年度～

　　第３期小中一貫教育の方向性

# 第１期小中一貫教育について

## 01 Mission（使命）
夢に向かって輝く子どもの育成

## 02 Vision（目指すべき状態）
越谷の子どもを９年間で育てる

- 学力向上
- 中１ギャップの解消
- 自己肯定感の高揚

## 03 Values（考え方や姿）
＜３つの切り口＞

- ☑ 授業改善
- ☑ 学級・学年経営改善
- ☑ 積極的な生徒指導

## Approach ～第１期の主な取組～

### ①生活規律の共有化
教育活動を効果的・効率的に進めることができるよう、共通した生活規律を身につけさせます。

### ②学習規律の共有化
共通の学習規律を身につけさせ、毎年繰り返してきた指導を精選します。

### ③学習過程の工夫
学年が上がっても、小学校から中学校に進学しても、教科での授業の仕方（流れ）をそろえます。

### ④板書計画の習慣化
児童生徒が考えを整理したり、深めたりできる板書を教師が計画し授業を行います。

### ⑤ノート指導の統一化
各教科で共通した正しいノートの書き方を指導し、学習習慣や学び方の形成を図ります。

### ⑥家庭学習の統一化
家庭学習を統一化し、習慣化させることで、学習内容の定着を図ります。

### ⑦学習形態の工夫
学習内容に応じて学習形態を工夫し、児童生徒の主体的な学びを引き出します。

## 小中一貫教育７つの取組
９年間を見通した系統的・連続的な取組



# 第２期小中一貫教育について

## Mission ～第２期小中一貫教育の共通目標～

自立した人間として、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら、新たな価値を創造するこどもの育成

## Concept ～構想～

○実際の社会や生活で生きて働く「知識・技能」の習得
○未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成
○学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性」の涵養

**第2期**

**カリキュラム・マネジメントの確立**

○「総合的な学習の時間」を中心とした探究的な学習
○社会に開かれた教育課程の実施と学校運営協議会との連携
○複数の教科等の連携を図る授業づくり
○「何のために学ぶのか」学びの必要感が実感できる授業づくり

わくわく感のある授業の創造

**第1期**

**主体的・対話的で深い学び**

○学ぶことに興味や関心をもって取組、自らの学習を振り返って次につなげる『主体的な学び』
○友だちや教師、地域の人々等との対話を通して、自らの考えを広げ深める『対話的な学び』
○各教科等の「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現する『深い学び』

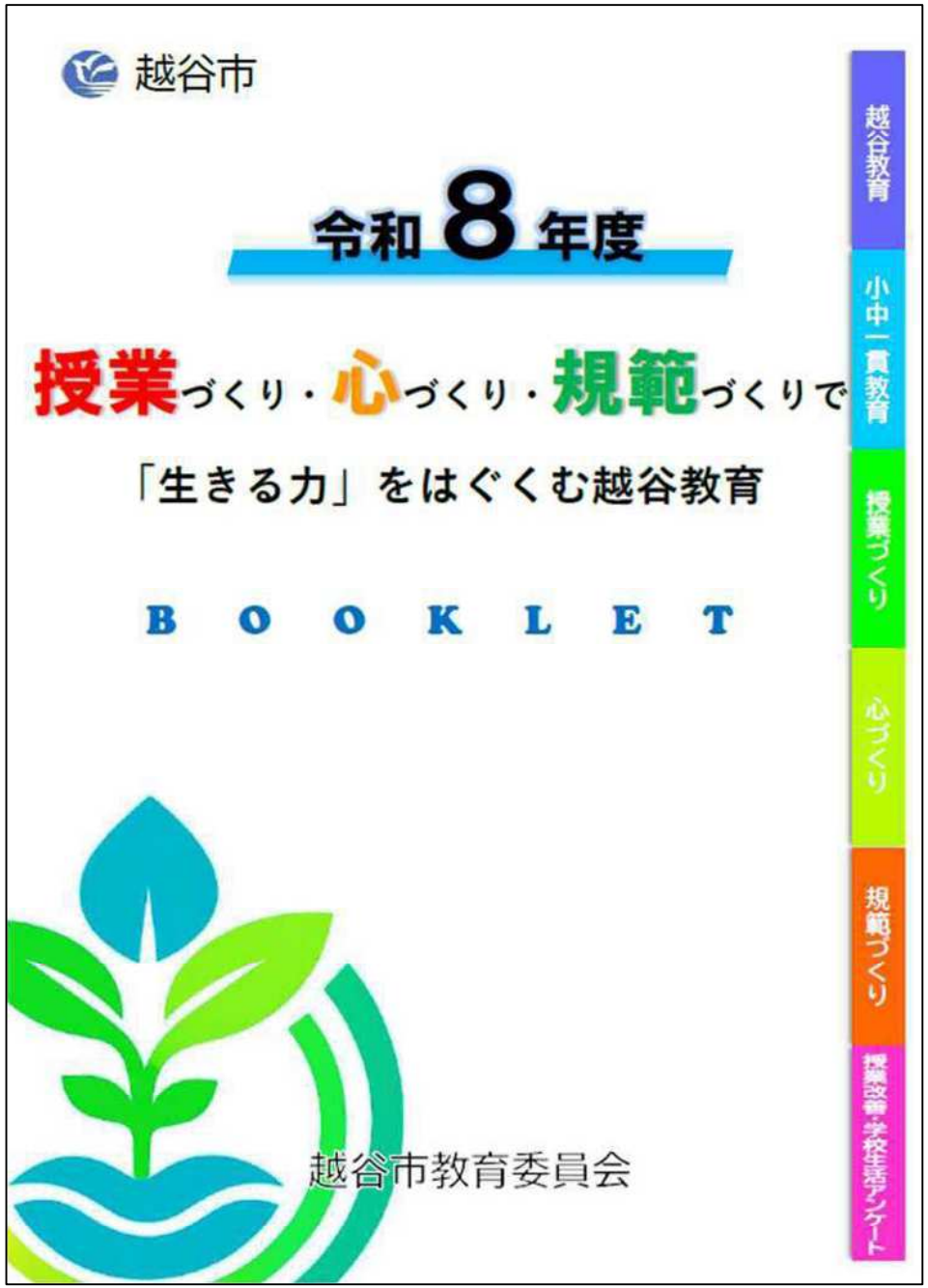
**小中一貫教育７つの取組**

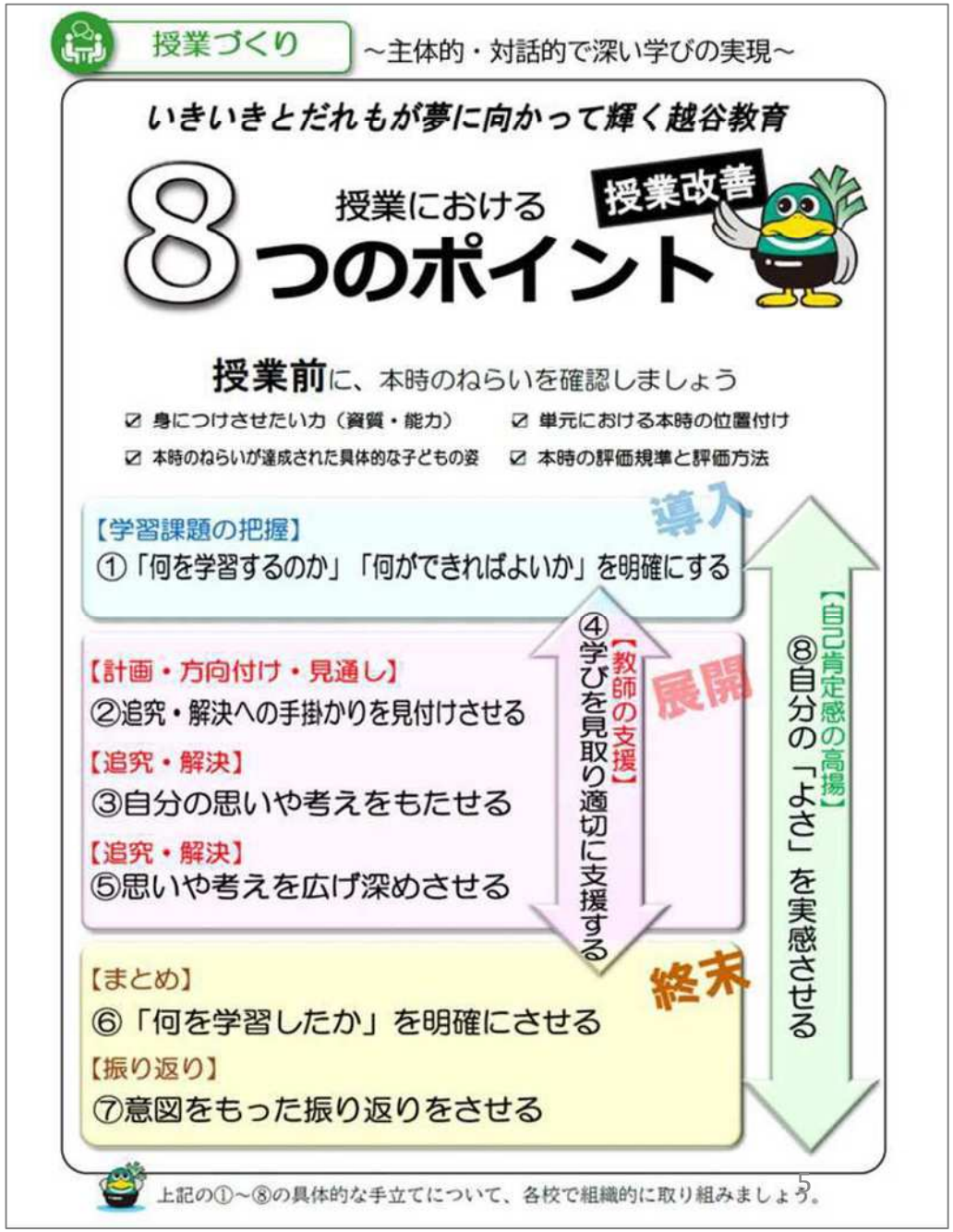
○ 生活規律の共有化　○ 学習規律の共有化　○ 学習過程の工夫　○ 板書計画の習慣化
○ ノート指導の統一化　○ 家庭学習の統一化　○ 学習形態の工夫

2015－2019　2020　2021　2022　2023　2024　2025

わくわく感のある授業づくりで、「学力向上」「自己肯定感の高揚」「学校生活充実感の高揚」を目指します。

# 「生きる力」をはぐくむ越谷教育 ＢＯＯＫＬＥＴ



# 「生きる力」をはぐくむ越谷教育 ＢＯＯＫＬＥＴ

## 規範づくり

～規範づくりと４つの視点～
～安心できる、居心地のよい集団（学級）づくり～

集団活動の中では、きまりやルール、約束などを守ることだけではなく、自分たちできまりや約束を考えたり、決めたことに責任をもって遂行したりするなど、主体的に判断し行動しようとする、**規範意識を育むこと**が重要です。そのためには「なぜそうすると良いのか」という納得や、「やってよかった」という実感が大切です。

規範づくりは、生徒指導実践上の4つの視点の「安全・安心な風土の醸成」だけでなく、全ての視点で大切です。

### 「安心できる、居心地のよい学級づくり」のためのポイント

- ○ 学級目標 －児童生徒、保護者、教師の願いを反映する－
- ○ 学級のルール －教師が決めるルール・自分たちで決めるルール－
- ○ 安心できる環境の土台づくり
- ○ 自治的な集団にするために

### （1）学級目標

学級に一歩入ったときに一番に目がいくのは学級目標の掲示です。学級目標には、児童生徒や保護者の思い、その学級の先生の願いや意志が反映されています。学級目標作成の過程を大切にし、「自分たちがつくった目標」という意識を大切にしましょう。




また、作成して終わりではなく、作成した学級目標を参考に児童生徒が自ら努力する目標を自己決定できるようにします。そして、学級の児童生徒一人ひとりが、**自分のどのような行動や関わりが学級目標を達成することになるのかが分かる指導と支援**が大切です。

### （2）学級のルール



学級のルールは、すべての児童生徒にとって、安心して暮らすために必要なものです。ルールには、

- ▸教師があらかじめ決めたルール
- ▸自分たちで考え決めるルール

があり、集団生活において欠かせない学校のルール（教師が決めたルール）を守ることはもちろん、教師の認める範囲において**自分たちでルールを決め、自分たちで守ることも大切です。**

ルールの提示に当たっては、毎日繰り返される係活動や清掃等の当番活動、学習の準備などでは「何のために、何をどこまで、どのようにすればよいか」の目的と方法、始まりや終わりの時間など、集団生活でのルールを文字や絵で明確にしておくことがポイントです。

### （3）安心できる環境の土台づくり

児童生徒が支え合い、高め合うことで、よりよい集団（学級）をつくるためには、共感的な学級の雰囲気や、児童生徒同士協力して活動に取り組むことができる人間関係といった安心できる環境が重要です。

**① 率先垂範**

指導する教師自身ができていなかったり、言行が一致しなかったりしてしまうと、指導の内容に説得力がなくなり、児童生徒の心に響かなくなってしまいます。児童生徒に伝えたい大切なこと、ルール等(時間を守る、人を傷つける言動をしない等)については、**まず教師自身が行い、模範を示す**ことが大切です。

## 心づくり

～授業における積極的な生徒指導～

### （1）新鮮な発想、感動を呼ぶ体験を！



人や自然に対して、感動や疑問をもつことができる体験など、学習内容や学習活動の工夫により、児童生徒の感性・情緒を育て、豊かな心を育みましょう。

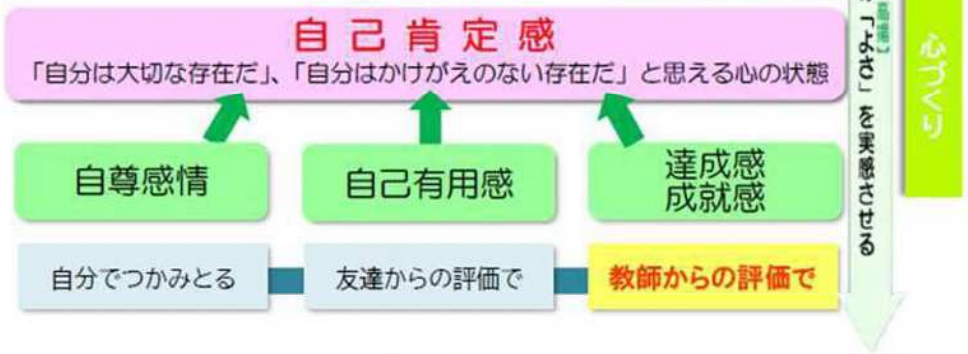
### （2）驚き、疑問、感動が生まれる協調的な学習活動を！

他者の話に耳を傾けることは、人間関係の基本です。受信者は、相手の立場に立ち、多様な考えを受け止めて聞き、状況に応じて的確に返すようにしましょう。そして、学級全体で共に同じことに感動する体験、「すごい！」「おもしろい！」「そういうふうに考えたんだ！」といった共感を生み出す体験を学級全体で共有することが大切です。そのために、教育委員会が発行している「越谷市生徒指導の手引」「ICT活用事例ハンドブック」を活用しましょう。

### （3）積極的な生徒指導による自己肯定感の高揚を！

児童生徒の「自己肯定感」を高めるには、**学校生活全体において積極的な生徒指導の考えを基に、好ましい評価ができる場面を作り、児童生徒を活躍させ、有効で、効果的な手法で評価することが大切**です。特に、本市においては、教育の核となる「授業」において児童生徒の自己肯定感を高めることが何よりも重要と考えます。



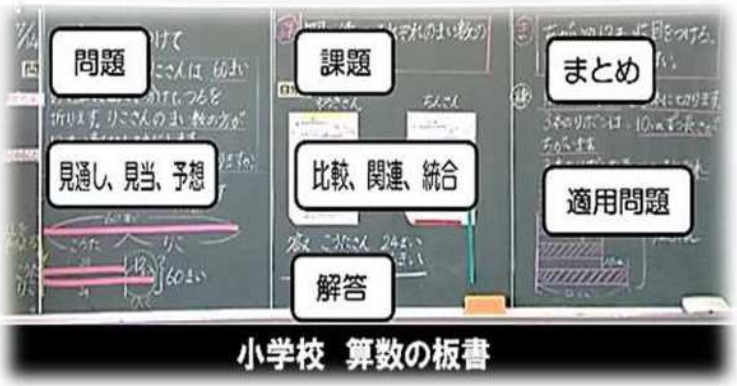

### 自己肯定感を高めるために

- ○ 意図的・計画的・継続的に積極的な生徒指導を行う。
- ○ 価値観の多様化を認める。
- ○ 試行錯誤の経験を与える。
- ○ 「やらされている」ではなく「自分がやった」感覚を与える。
- ○ 組織で共有する。

# 第2期小中一貫教育にて広く取り入れられた取組

## 8つのポイント

- 授業の流れ
- 課題設定
- 振り返りの視点
- ロイロノート
- 授業配信



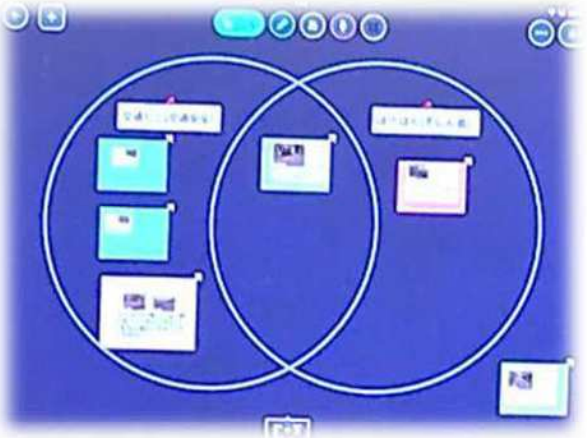
小学校　算数の板書

## ICTの活用




## 構造的な板書

- 思考の流れが見える板書
- 板書カード
- 板書計画の共有



# 研究発表会　＜令和３年度＞

## 北中学校区研究発表会

北中学校・大袋小学校・桜井南小学校



『次世代を担う子どもたちに思考力・判断力・表現力を育む授業の創造』
～教科横断的な「書く」活動を通して自己肯定感を高める指導の充実～

～ 教科横断的な「書く」活動を通して
自己肯定感を高める指導の充実 ～

育成すべき資質・能力

自立した人間として、主体的に判断する力
自立した人間として、多様な人々と協働する力
自立した人間として、新たな価値を創造する力

「書く」活動による「振り返り」の方法や型の検討



振り返りの視点や型を明確に示す

発達段階に合わせて各教科とも4段階で評価



振り返り4321
1 課題は、解決できましたか。
2 工夫して考え、取り組めましたか。
3 友達の考えの良さや表現の良さを見つけられましたか。
4 さらに考えてみたいこと、表現してみたいと感じたことはありましたか。
5 学習感想

タブレット端末の効果的な活用



ICTを活用して主体的に

自分の考えの理由や根拠を明確にさせる

協働的な活動を設定して

広がったり深まったりした考えを表現（言語化）させる



理解できたことやできるようになったことを自分の言葉で書く
→ 児童生徒が変容を実感
→ 自分への自信に
→ 自己肯定感の高揚へ

## 中央中学校区研究発表会

中央中学校・越ヶ谷小学校・東越谷小学校・花田小学校



『自ら考え学び合い 自他を思いやり 笑顔あふれる児童生徒の育成』
～『主体的・対話的で深い学び』、『わくわく感ある授業づくり』を通して～

育成すべき資質・能力

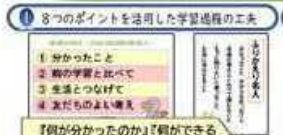
① 社会で活用するための知識・技能
既習の知識・技能と新しい知識・技能を組み合わせ、社会の様々な場面で活用できる力

② 問題を発見し解決していくための思考力・判断力・表現力
学んだ知識・技能を活用・応用し、問題を発見・解決に導くために思考・判断・表現する力

③ よりよく生きるために必要な、学びに向かう力、人間性
粘り強く学習に向かい、自らを客観的に捉え社会の一員としてよりよく生きていくための力

中央中ブロック ～ 7つの取組と心の教育 ～

① 8つのポイントを活用した学習過程の工夫



『何が分かったのか』『何ができるようになったのか』を書かせる振り返りを実施している。

② 8つのポイントを活用した学習形態の工夫



話合いの目的に応じてグループ化。目的を明確にし、根拠をもって取り組ませる。

③ 板書計画の習慣化



後で見返した際にも、授業の流れを思い起こさせる。

④ ノート指導の統一化



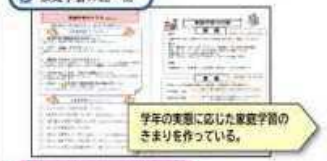
児童の思考を視覚化し、「考える過程」を大切にしている。

⑤ 生活規律の共有化　⑥ 学習規律の共有化



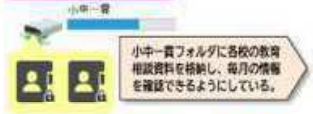
小・中で共通の生活や学習の規律を定めることで、中学校に進学してもスムーズに生活することができるようにしている。

⑦ 家庭学習の統一化



学年の実態に応じた家庭学習のきまりを作っている。

⑧ 生徒指導・教育相談の充実



小中一貫フォルダに各校の教育相談資料を格納し、毎月の情報を確認できるようにしている。

⑨ 生徒会を中心とした交流



中央中学校の生徒会だよりをブロックの小学校全児童に配信し、中学校の活動を紹介している。

# 研究発表会　＜令和４年度＞

小中一貫教育・学力向上

## 武蔵野中学校区研究発表会

『個を磨き、より良い未来を選択できる児童生徒の育成』
～学力の向上・自己肯定感の高揚・学校生活充実感の高揚～

### 期待される児童・生徒の振り返りを生かした授業づくり

合言葉「なしともも」

- な：何を学んだか、何ができるようになったか。
- し：楽しく取り組んだこと。（発見・気付き）
- とも：友達の考えを聞いて思ったこと。
- も：もっと取り組んでみたいこと。

振り返りの視点を定めた合言葉「なしともも」を用いて、「期待される児童生徒の振り返り」を設定し、学習活動・学習形態等の工夫を図る。

### 「見方・考え方」を働かせた授業づくり



児童生徒が、各教科ならではの視点に沿った意見や考えができるように、指導方法を工夫し、自ら気付いたり発見したりできるようにする。

「自立した人間として、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら、新たな価値を創造する児童生徒」の育成を目指し、日々の授業改善や連携した行事への取組を意図的・計画的・継続的に行い、児童生徒の学力や自己肯定感を大幅に伸ばした。今後も児童生徒の基礎学力の定着や応用力の育成に向け、授業改善を継続させていく。

○授業参観月間・１人１授業の実施（教員同士の参観）



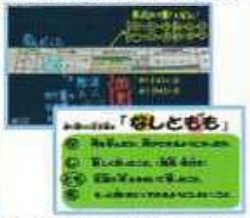
○自主研究発表会による授業改善



○家庭学習の定着




○授業内での振り返りの活用




○朝学習（小学校…国、算　中学校…国、数、英）




○小中一貫共通の振り返りの合言葉「なしともも」の共有
（越谷市授業における８つのポイント⑦【振り返り】）

○校内で成果を上げている取組の共有

【小中共通】・児童生徒の教え合い・タブレットの活用
【小学校】・学力テストプレテスト大会・夏休み算数教室
【中学校】・基礎学力確認テスト・全校補習

小中一貫教育・学力向上

## 東中学校区研究発表会

『対話的な学び“シェアタイム”を通して、深い学びにつなげる授業の創造』
～「主体的・対話的で深い学び」を充実させる授業づくりを目指して～

### “シェアタイム”の目的の明確化



シェアタイムを行う目的・意図を明確にし、学習形態や時間などを、授業の内容や児童生徒の実態に合わせて設定する。

### 「シェアタイム」

深い学びの実現

育成すべき資質・能力

- 主体的に学ぶ力
- 考えを広げ、深める力
- 学びを活かす力

### 各教科等の「見方・考え方」の設定



本時で着目する「見方」、どのようにして思考するかの「考え方」を明確にし、「見方・考え方」を働かせる深い学びを目指している。

目指す児童生徒像「主体的に学び、考えを深め、未来を切り拓く児童生徒」の具現化に向け、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善に取り組んだ。どの教科においても対話的な学び“シェアタイム”をツールとして効果的に活用して深い学びにつなげ、資質・能力の育成を目指した。

小中一貫教育・学力向上

## 北陽中学校区研究発表会

「未来に向かっていきいきと学び合う児童生徒の育成」
９年間で目指す児童生徒像　○自ら課題を見つけ、主体的に学び合い、解決する子
○自他を認め励まし合い、自信を持って自分に立ち向かう子
○多様な人々との協働を通して、自立心や社会性を身につける子

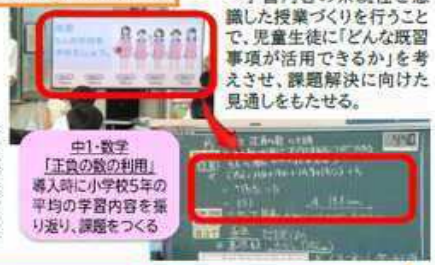
北陽中学校区の第2期小中一貫教育「授業改善」の重点
①授業における【8つのポイント】の視点を意識した授業
②授業の流れが分かる【板書】
③【系統性】を意識した授業
④【根拠】を明確にした話し合い

### 板書の構造化



構造化された板書を行うことで、学びの流れが分かり、児童生徒が主体的に学び合い、解決できるようにしている。

### 系統性を意識した授業




学習内容の系統性を意識した授業づくりを行うことで、児童生徒に「どんな既習事項が活用できるか」を考えさせ、課題解決に向けた見通しをもたせる。

「授業における【8つのポイント】の視点を意識した授業」「授業の流れが分かる【板書】」「【系統性】を意識した授業」「【根拠】を明確にした話し合い」の4つを授業改善の重点として取り組んだ。小中相互間の連携を⑨に図ることにより、小中の協働した研究を推し進め、学びの質の向上や学習内容の充実を目指した。

# 研究発表会　＜令和５年度＞

小中一貫教育・学力向上

## 西中学校区研究発表会

・西中学校
・荻島小学校
・宮本小学校

『小中９年間の学びをつないだ自分の『よさ』を自覚する児童・生徒の育成』
～学力向上・自己肯定感の高揚・学校生活の充実感の高揚を通して～

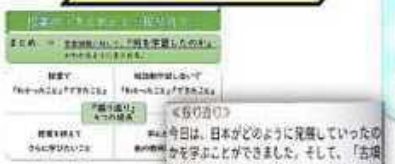
振り返りを充実させた授業づくり

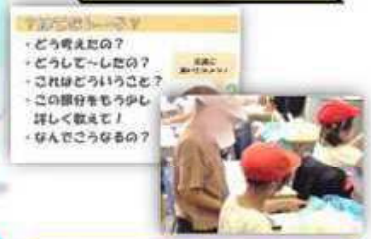
自分の「よさ」を実感できる授業づくり

学力向上
自己肯定感の高揚
学校生活充実感の高揚

育成すべき資質・能力

自分の「よさ」を自覚





・どう考えたの？
・どうして～したの？
・これはどういうこと？
・この部分をもう少し詳しく教えて！
・なんでこうなるの？

振り返りの視点を意識させることで、学びへの充実感を高める。また、次の授業への期待感をもたせることで、主体的に学習に取り組む態度を育てる。

話し合いから自分の考えのよさに気付かせる、ほめるポイントを明確にして称賛するなど、具体的な手立てを三校で共有し、児童生徒に授業の中での「よさ」を実感させる。

上記の取組だけでなく、校長賞や家庭学習の充実、ICT の活用、積極的な生徒指導等の取組も含め、児童生徒が自ら考え行動し活躍できる場を意図的に設け、教師が称賛する機会を設けた。その結果、児童生徒が自主的に活動する姿や達成感を味わう姿が増え、学校生活充実感が高揚し自分の「よさ」の自覚へとつながった。

### 学習規律等の共有

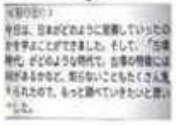




### 振り返りの充実









### 自分の「よさ」の実感







小中一貫教育・学力向上

## 平方中学校区研究発表会

・平方中学校
・桜井小学校
・平方小学校

『平方プライドの醸成　―自信を持って生きる児童・生徒の育成―　』
～課題解決に粘り強く取り組む中で、表現力を高め、自己肯定感の高揚を図る指導の充実～

### 自己肯定感の高揚







学校生活を通して、多くの児童生徒に自己有用感を持たせることと、小さい学校規模であることを生かし、自己肯定感の低い児童生徒を個々に把握し、様々な場面で働きかけることで、より前向きな学校生活が送れるようにする。

### “書くこと”を通した学力向上

知識　理解　応用
分析　統合　評価



第1期より継続して行ってきた「つづれ VA！」（資料から情報を読み取り、自分の考えを表現する取組）の視点を生かし、意図をもって書くことを各教科の中で取り入れる。学習のプロセスに書くことを取り入れることで、学力向上の一助とする。

学校生活・授業内での児童生徒同士・児童生徒と教職員との関わりが、一人一人の活動意欲を支えるための力になり、自己肯定感の高揚がみられた。また、「つづれ VA！」や授業の振り返りなど、わずかな時間でも、視点や意図をもって書くことの積み重ねから、記述式解答問題への無回答率の減少、文章を読み取りまとめる力の充実を図ることができた。

小中一貫教育・学力向上

## 光陽中学校区研究発表会

・光陽中学校
・川柳小学校
・明正小学校

『自信をもって、夢や希望をかたり、社会の担い手として自立できる児童生徒の育成』

| Y【やる気】 | J【自力】 | C【コミュニケーション】 |
|---|---|---|
| 子ども主体の課題設定<br>導入の工夫<br>学びの活用 | 見方・考え方の指導<br>考える時間の確保<br>考えを書く/話す | コミュニケーション<br>に通した問いの設定<br>対話・協働 |







中心は授業




流れがわかる板書・ＩＣＴの活用・自己肯定感の高揚

「研究の手引き」で教員の意識を高める

「Y･J･C」各場面での目指す姿を、「小1･2」「小3･4」「小5･6中 1」「中 2･3」で系統づけてまとめ、３校の授業で実践する指針とした。子どもが学習課題や学習活動を自ら選択したり、自分の考えを持たせ他者との関わりの中で学びを深めたりするなど、構造的な板書や ICT 活用にも力を入れながら多様な学習活動を充実させる。

授業における【8つのポイント】を着実に実践するために、指導の重点とする「Y･J･C」の視点を定め実践するとともに流れのわかる板書、ICT の活用、自己肯定感の高揚を意識し「わくわく感のある授業」につなげている。小中一貫教育学習・生活ガイドラインを作成するなど９年間を見通した継続的・発展的な取組を行い、「授業づくり」「規範づくり」を中心として児童・生徒の資質・能力の高まりがみられた。

# 研究発表会　＜令和６年度＞

小中一貫教育・学力向上

## 大袋中学校区研究発表会

・大袋中学校
・大袋小学校
・大袋東小学校

**『自ら学び、自ら鍛え。自他を尊重し、社会に主体的にかかわる子どもの育成』**
**～自信と誇りを育む学校・家庭・地域の取り組み～**

### 「Y・K・C」「見方・考え方」を軸とした授業づくり




小中の共通の課題である基礎基本の定着と論理的思考力の向上に向け、小学校では「Y(読み)・K(書き)・C(コミュニケーション)」を軸にした授業、中学校では「Y・K・C」を内包した「見方・考え方」を働かせた授業を展開し、学習活動の充実と授業改善を図った。

### 「振り返り」を生かした授業づくり




振り返りを書く際に、視点を明確に定めて書かせることで、児童生徒がその時間や単元での学びを自覚し、「授業で学んだこと」「それが何に生かせるかを考えること」に繋げた。
また、児童生徒の学習内容への理解や疑問等を確認し、次時の学習につなげるなど教員の授業改善や指導力向上を図った。

取組を通して児童生徒の基礎・基本の定着を図り、論理的思考力を高めたことで、特に「書く力」や「思考力・判断力・表現力」等の学力面の向上が見られた。また、自己肯定感の高揚を目指した「大袋チャレンジ」などの取組により、授業でも「やってみたい・考えてみたい」と進んで課題に取り組んだり、話を聞き、考えを進んで発表したりする児童生徒の姿が多く見られるようになった。

小中一貫教育・学力向上

## 新栄中学校区研究発表会

・新栄中学校
・大沢北小学校

**『「聞く力」「話す力」を高め、「学びあい」を深める授業の創造』**
**～わくわく感のある教育活動を通して～**

### 「伝え合い」から「学びあう　みがきあう」児童生徒の育成

○論理的に説明する　○興味関心をもって主体的に取り組む

相手意識をもって聞いたり、根拠をもとに考え判断し説明したりする活動に重点的に取り組み、「学びあい」によって学習を深めて思考力・判断力・表現力を育む授業の工夫・創造を行った。



### 授業スタンダードの確立と視点を定めた振り返りの充実

授業の流れを「つかう・見通す」「考える」「伝え合う」「まとめる」で整理し、各教科で小中統一のスタンダードを作成。また、振り返りの視点を定め、知識技能の定着及び自己肯定感の高揚を図った。


各教科等で作成した授業スタンダード



振り返りの視点「わたしでかつ」

授業において自分の言葉でまとめや振り返りができた児童生徒が多く見られ、「聞く力」「話す力」を高める「学びあい」の活動、授業スタンダードや「わたしでかつ」による振り返りの取組が児童生徒に浸透した。加えて、児童生徒間・教職員間交流や家庭学習、教育相談、特別支援教育等の取組が自己肯定感や学校生活充実感の高揚につながった。

小中一貫教育・学力向上

## 南中学校区研究発表会

・南中学校
・蒲生小学校
・蒲生南小学校

**『「多様な学びを通して、自己の生活に生かせる資質と能力」の育成』**
**～書くことで考えを整理し、伝え合うことで学びを深める教育実践を通して～**

### 考えを整理するために「書く」



すべての教科等において、課題を解決するために必要な「書く」活動を設定している。
多様な「書く」活動を９年間を通じて行い、目的に応じてどのような書き方をすればよいかを選択する力の基礎となっている。

授業改善

### 学びを深めるために「伝え合う」

グループやペア等、様々な形態で伝え合う活動を行い、目的をもった活動が行われている。多様な意見を出し合うための伝え合い、よりよい解法を見つけるための話し合い等、授業における課題を解決するための活動を行っている。



各教科等の系統性を意識しながら、「書く場面」「伝え合う場面」を意図的に設定してきたことで、「理由とともに自分の考えを書く活動」の質が向上し、児童生徒に書く力・伝える力がついてきている。また、一貫性のある課題の設定と振り返りの実践により、学びを次の学習や生活に生かそうとしている児童生徒の姿が見られるようになった。

小中一貫教育・学力向上

## 富士中学校区研究発表会

・富士中学校
・南越谷小学校
・出羽小学校

**『目の前にある困難を乗り越え、さらに高みを目指す力の育成』**
**～児童・生徒の「振り返り」から再考する、わくわく感のある授業づくりを通して～**

### ○意図を明確にした振り返り

教員側のねらいに即した意図的な「振り返り」を毎時間行うことで、「わかったこと」や「気付いたこと」さらには「これからの学習に生かしたいこと」などが書けるようになり、児童生徒主体の課題設定のある授業へつながるようになった。






### ○わくわく感のある授業づくり



「富士中ブロック授業スタンダード改」をもとに「つかむ」「考える」「深める」「まとめる」「振り返る」それぞれの過程において「指導のポイント」を設定することで、教師間で一貫性のある指導を行えるようにした。また、「指導のポイント」は、児童生徒の興味関心を引き出すことを念頭に作成した。

「富士中スタンダード改」をもとに「わくわく感のある授業」を実践する中で、指導のポイントを統一するとともに、振り返りを毎授業行うことにより、児童生徒の達成感や自己肯定感の高揚が見られた。また、「自己肯定感が高まる」→「主体的に学習に取り組む」→「学力UP」→「自己肯定感がさらに高まる」というよいサイクルが見られた。

# 研究発表会　＜令和７年度＞

小中一貫教育・学力向上

## 栄進中学校区研究発表会

・栄進中学校
・大沢小学校
・北越谷小学校
・鷺後小学校

「生き生きと夢に向かって、主体的に取り組む、心豊かな児童生徒の育成」
～主体的に課題に取り組み、共に学び合いながら、新たな価値を創造できる児童生徒～

NEO　個別最適な学び　←一体的な充実→　HOT　協働的な学び
H：話し合い　O：教え合い　T：高め合い



児童生徒が理解度に応じて、主体的に学習方法を選択することができるよう、指導方法を工夫したり、柔軟に教材を提供、設定したりしている。
児童生徒それぞれの興味・関心に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供し、見通しを持って、主体的に課題を解決しようとする態度を育成している。






他者と考え方を共有し、自己の考えを深める時間を設けることで、一人一人の良さや可能性を伸ばしている。また、「小・中学校間、小学校間での相互授業交流」「ノートや作品の交流」等に取り組み、系統的な教育を行うとともに、児童生徒の興味・関心を高め、学習意欲の向上につなげている。





【1単位時間・単元の流れ】
NEO①自分なりの「理由」や「根拠」もとに「考え」を持たせる
↓
HOT②「話す」「聞く」「伝え合う」
「H:話し合う」「O:教え合う」「学び合う」
③自分の考えを、「深める」「広げる」「T:高める」
↓
新たな価値を創造





『栄進 Style NEO HOT』を取り組みの重点として、「学力向上部会」「交流連携部会」「調査分析部会」の3つの専門部会において、小・中学校が一体となって研究を進めた。日々の授業改善の取組が、児童生徒の主体的に学習に取り組む姿勢を育み、児童生徒の学力向上や自己肯定感、学校生活充実感の高揚へとつながった。

小中一貫教育・学力向上

## 大相模中学校区研究発表会

・大相模中学校
・大相模小学校
・西方小学校

「夢に向かって輝く児童・生徒の育成」
～主体的・対話的で深い学びをとおして、自己の未来を拓く学力と自己肯定感を育む～

**課題を見つけ、解決する力**



各教科の特性を踏まえ、既習事項や実生活と関連付けた課題を設定し、予想や調べ学習を通して個人で解決方法を探究する。さらに、課題に再度向き合い結論を考え、まとめと振り返りにつなげることで、主体的、対話的で深い学びを実現している。

**意欲をもって自己を高められる力**



児童・生徒が学びの成果を実感できるよう、UD（ユニバーサル・デザイン）を意識した視覚・聴覚へのアプローチや丁寧な指導を行っている。また、板書カードで学習の流れを見える化し、意欲を高めるとともに、声かけや支援により自己肯定感を育む工夫をしている。

**自他共に認めあい、学び合う力**



ペアやグループ学習を意図的に設定し、個で考えた後の意見交換により多様な考えに触れ、意欲を高めている。さらに、学級全体で方法や工夫点を確認し合い、互いにアドバイスをしながら学習を進めるなど、丁寧な伝え合いや新たな発見が生まれる学び合いを実現している。

大相模中学校区の研究主題である『夢に向かって輝く児童・生徒の育成』に向け、課題解決の道筋を示す指導や学びの成果を実感できる工夫、協働的な学びの場の設定など、様々な取組を進めてきた。これらの実践により、児童・生徒が主体的に学び、自己肯定感を高め、互いに認め合いながら、資質・能力を伸ばすことができた。

小中一貫教育・学力向上

## 千間台中学校区研究発表会

・千間台中学校
・千間台小学校

「豊かな情操と主体的に学ぶ姿勢を育み自己肯定感の高揚を目指す教育の実践」
～夢に向かって輝く千間台の子どもたちを目指して～

**言語活動の工夫・充実**

思考を言語化する活動や振り返りを意識した授業実践を小中で共有している。越谷市の授業における8つのポイントを意識して授業スタンダードをもとに授業の流れをつくり、言語活動を充実させた「主体的・対話的で深い学び」の実践に取り組んでいる。



思考ツールを活用した対話活動



生きて働く日常生活に結びつく表現力の育成

×

**自己肯定感を高める指導・支援の工夫**

自己肯定感を高揚させるための指導・支援の工夫の1つとして、生徒指導の実践上の4つの視点（自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成）を意識的に取り入れて授業を展開している。



選択場面・考える時間の確保等、自己決定の場の提供



児童生徒のつぶやきへの注目等、自己存在感の感受



**4つのスタンダード**
・授業スタンダード
・学習スタンダード
・家庭学習スタンダード
・生活スタンダード



9年間で身につけさせたい力の設定

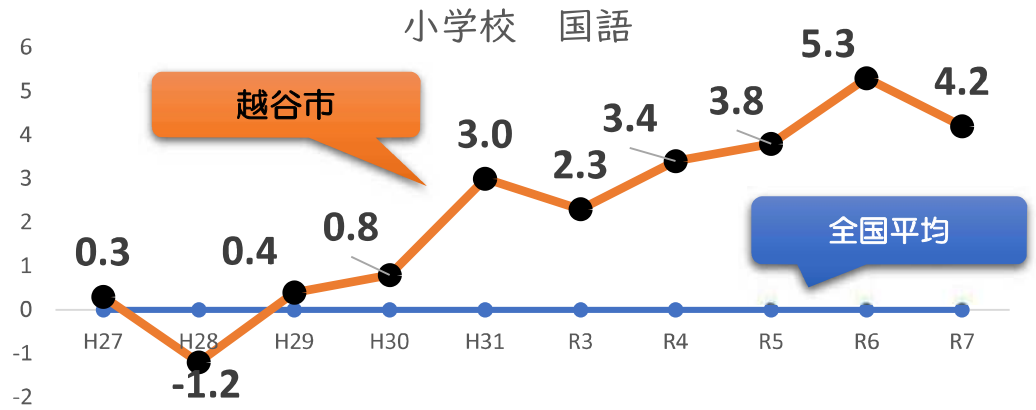
「学力向上・授業改善」「教育相談・交流」「調査研究」の専門部会で研究を進め、児童生徒間交流など年間を通じて小中の関わりを強めた。研究主題の実現に向け、言語活動の工夫・充実と自己肯定感を高める指導・支援の工夫の2つを研究の重点として取り組み、「学力向上」「自己肯定感の高揚」「学校生活充実感の高揚」についても一定の成果を上げることができた。

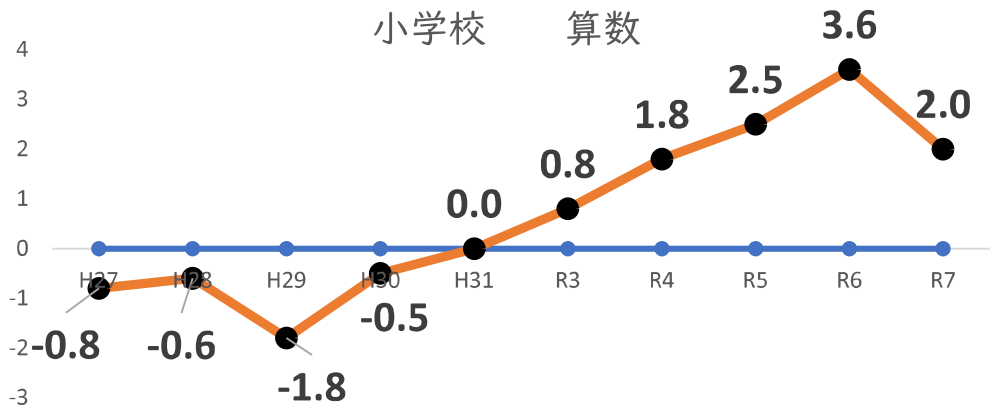
# 第２期小中一貫教育の成果について①

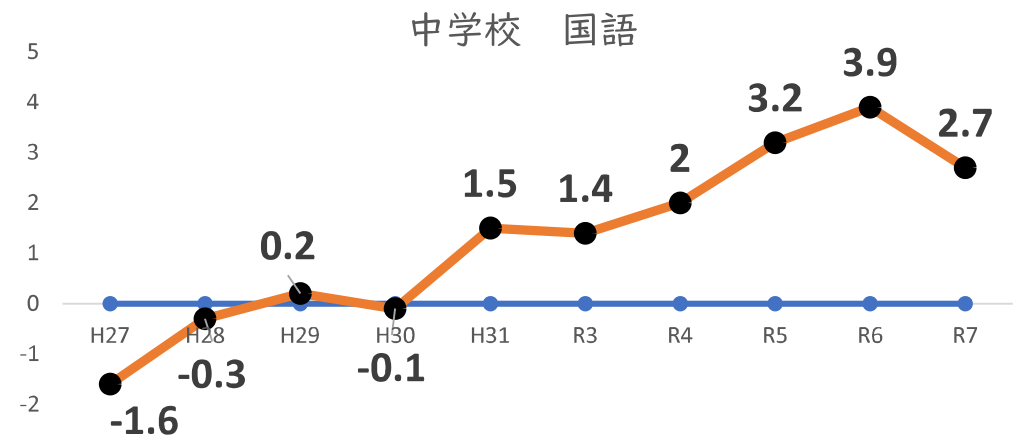
学力向上

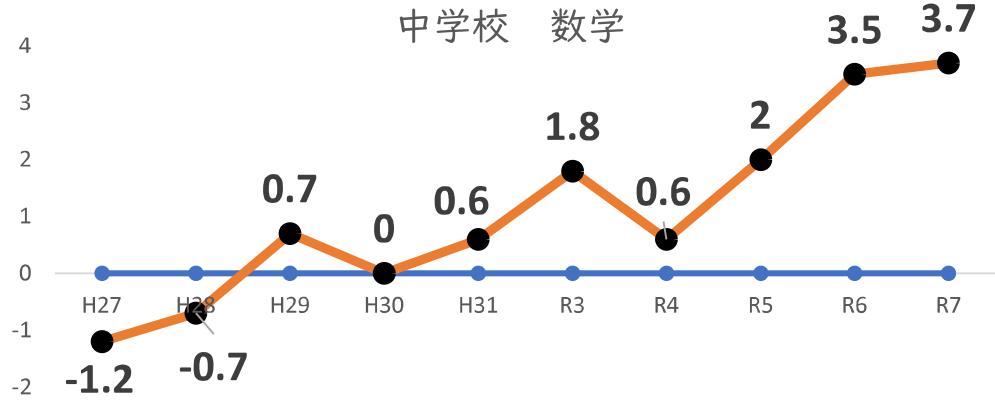
# 第２期小中一貫教育の成果について①（学力向上）

全国学調における越谷市の小６及び中３の平均正答率と全国平均正答率との差



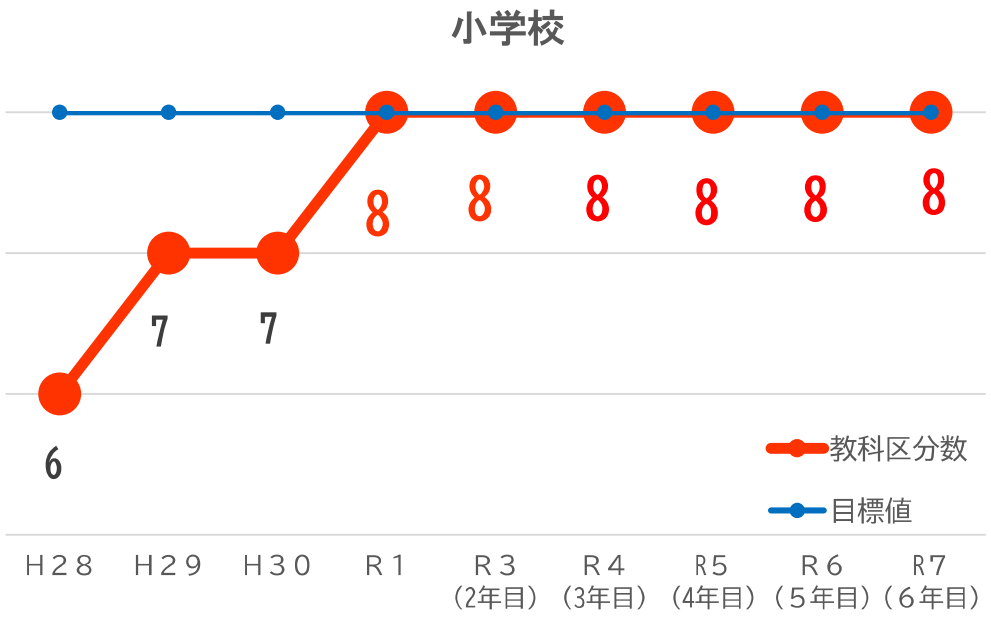



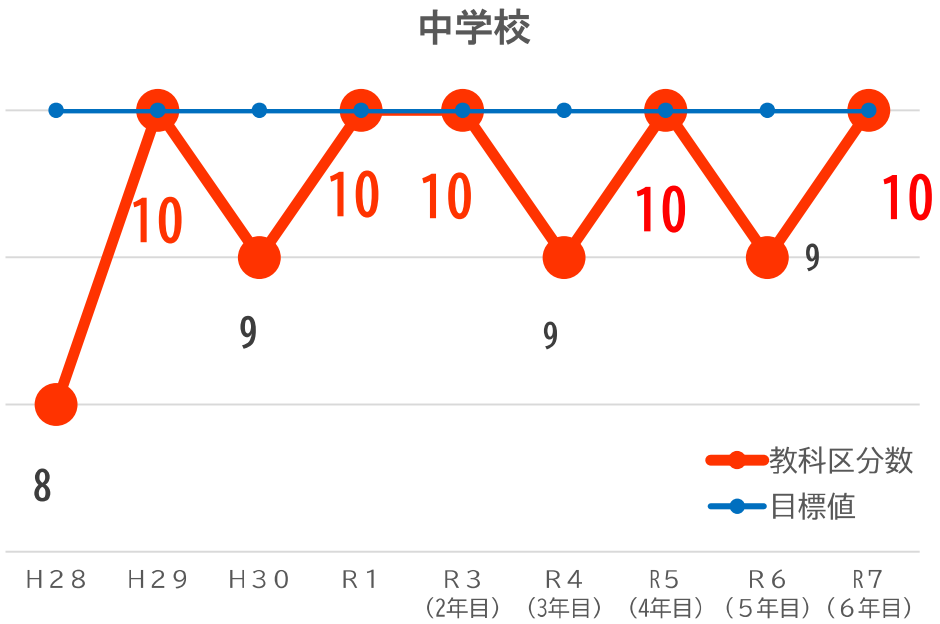



# 第２期小中一貫教育の成果について①（学力向上）

全国・県学調の平均正答率を上回った教科区分数



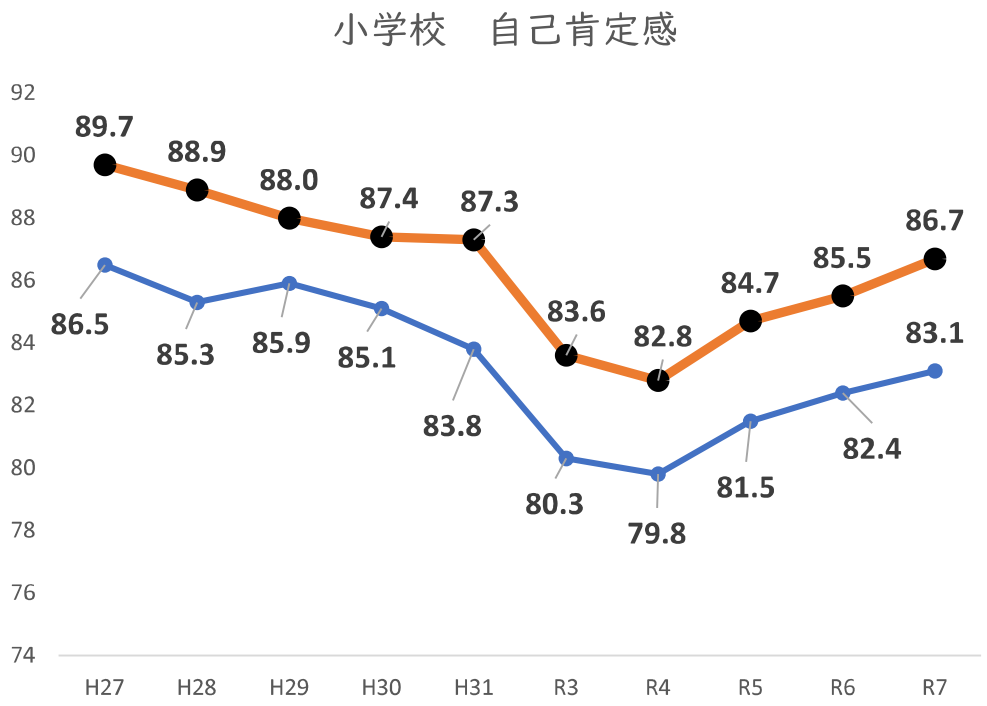

全国：小６国語・算数、中3国語・数学　（　４教科区分）
県：小４～６国語・算数、中１～３国語・数学、中２・３英語　（１４教科区分）

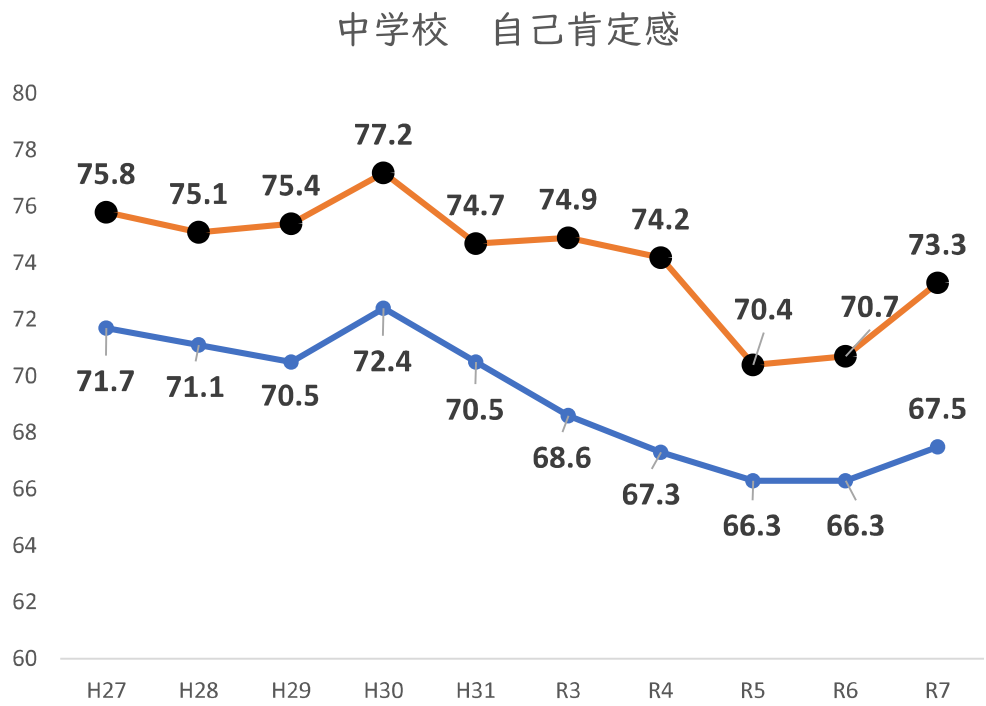
# 第２期小中一貫教育の成果について②

# 自己肯定感の高揚

# 第２期小中一貫教育の成果について②（自己肯定感の高揚）

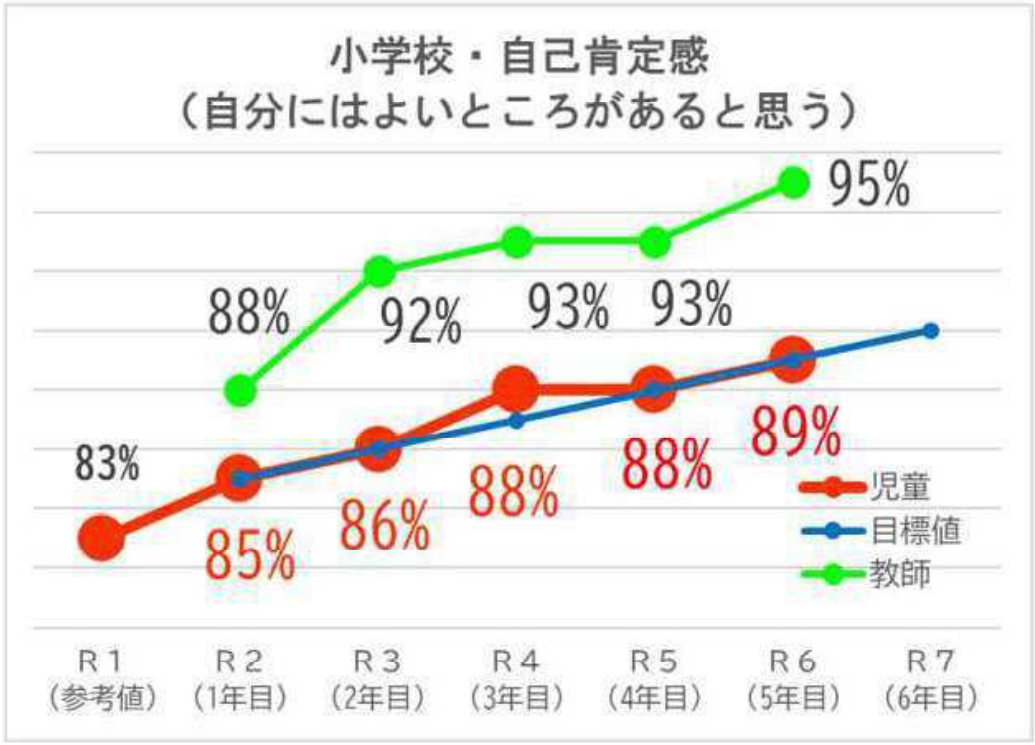
全国学調質問事項「将来の夢や目標をもっていますか」の肯定的回答の割合（%）

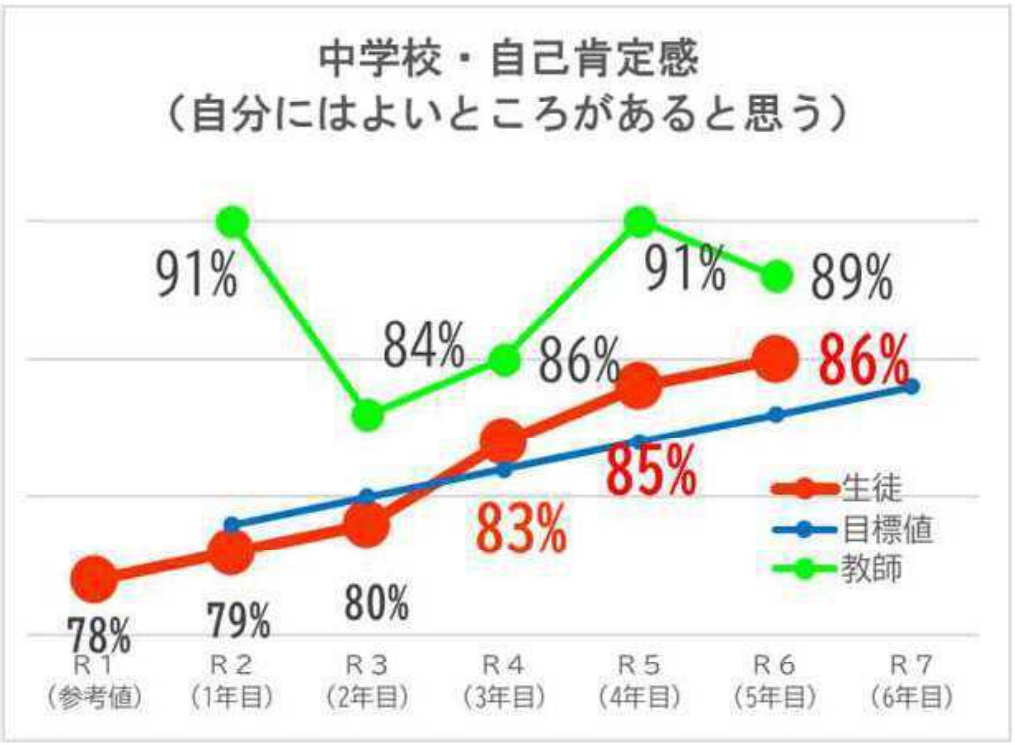


# 第２期小中一貫教育の成果について②（自己肯定感の高揚）

越谷市「授業改善・学校生活アンケート」の質問事項
「自分には、よいところがあると思いますか。」において、肯定的な回答



# ICTの活用状況

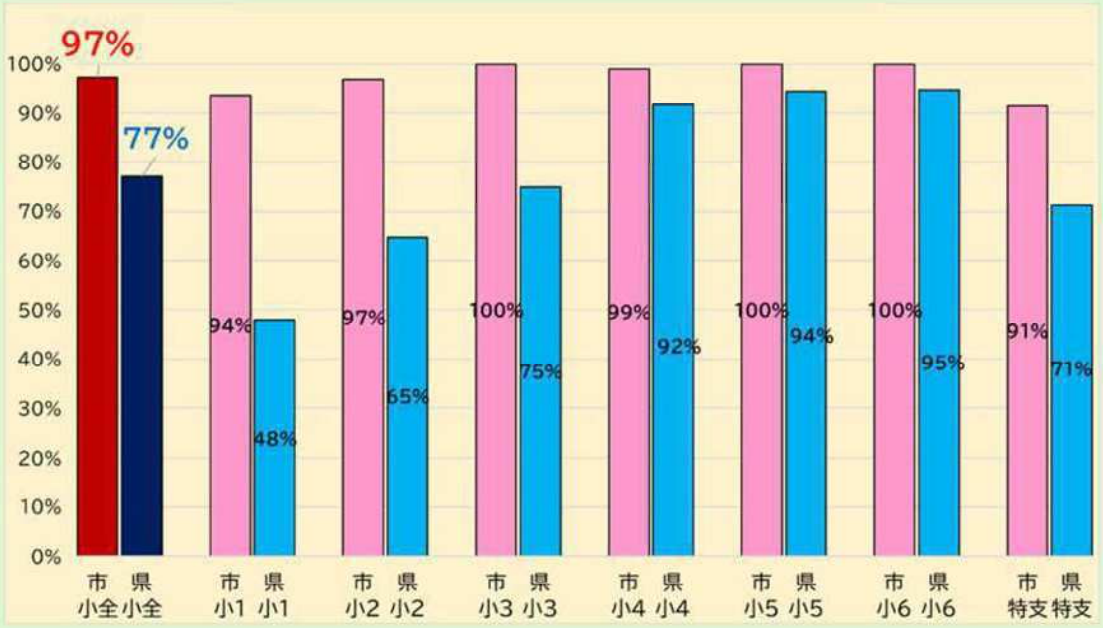
# 第２期小中一貫教育の成果について③（ICTの活用状況）

## 小学校

## 中学校

平時の授業におけるICT活用状況（週３以上）

※各学年左がR5.12月末の結果、右がR6.12月末の結果







「GIGAスクール構想進捗状況調査（R5.12月末日）」県教委より抜粋







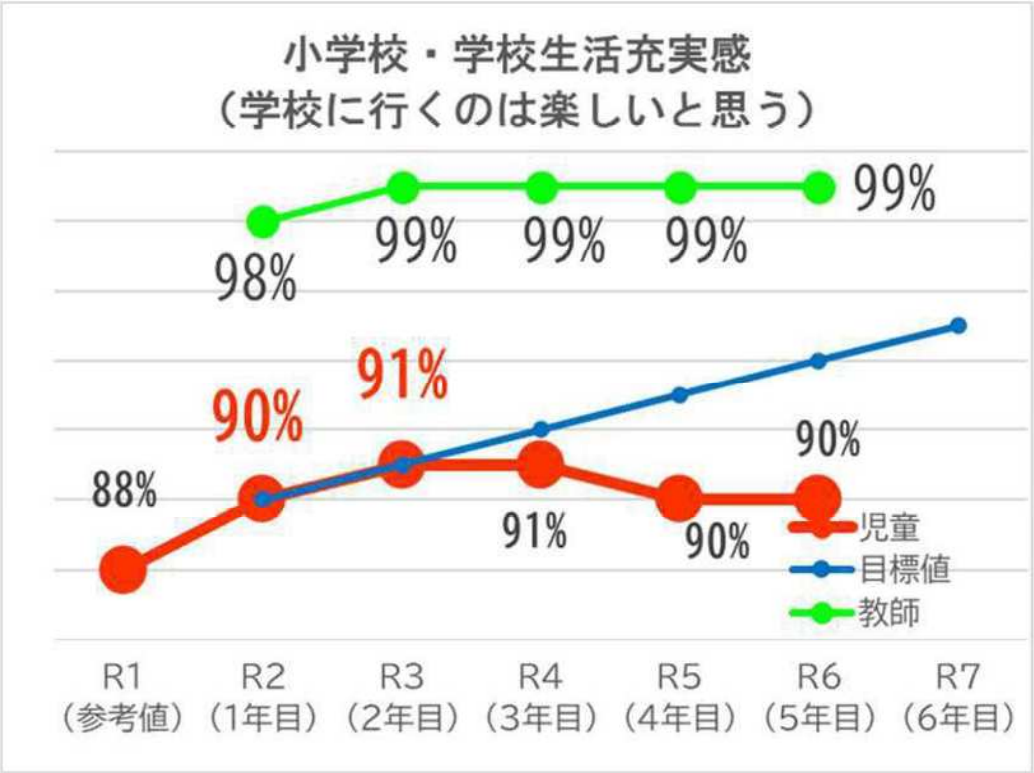
# 第２期小中一貫教育の課題について①

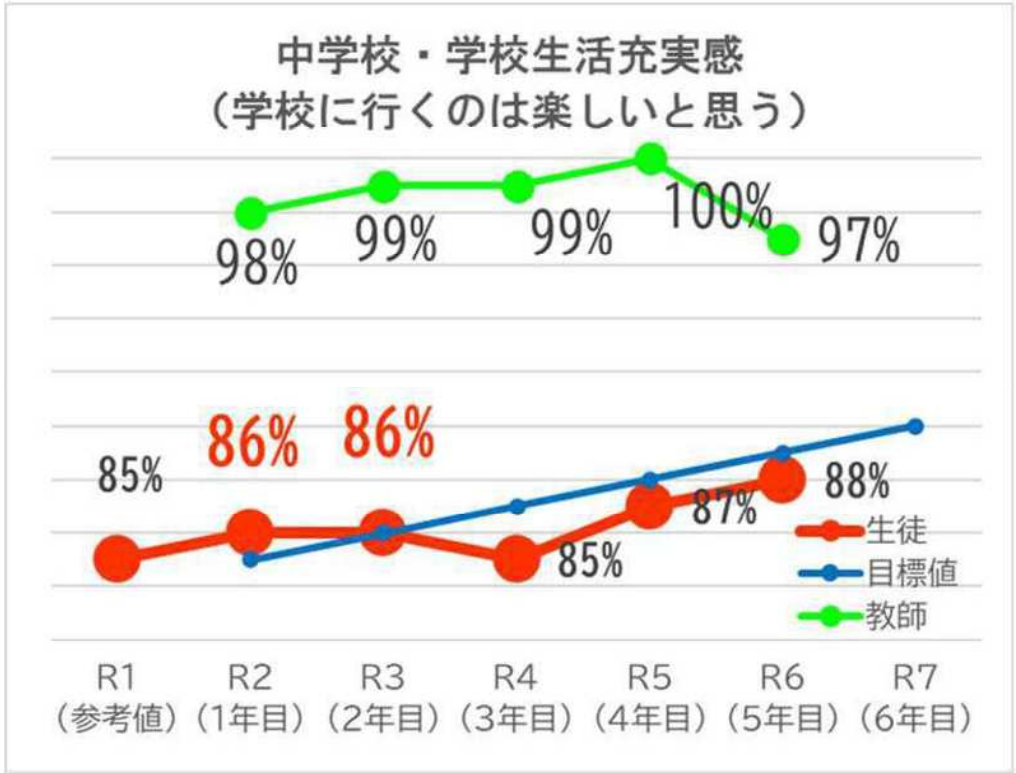
# 学校生活

# 充実感

# 第２期小中一貫教育の成果について①（学校生活充実感）

越谷市「授業改善・学校生活アンケート」の質問事項
「学校に行くのは楽しいと思いますか。」において、肯定的な回答



# 第３期小中一貫教育の方向性

## 課題

**学校生活充実感の高揚**

## 必要なのは…

- さらなる授業改善
- 魅力ある学校づくり
- より深い小中の連携

# 共通目標




**夢に向かって主体的に学び、多様な人々と協働し、**

**持続可能な社会の創り手となる児童生徒の育成**






# 共通のねらいと重点取組

## 共通のねらい

- 学力向上
- 自己肯定感の高揚
- 学校生活充実感の高揚

## 重点となる取組

- わくわく感のある授業
- 生徒指導の実践上の4つの視点
- 4-3-2制による小中一貫教育

# わくわく感のある授業

## 「わくわく感」とは

「わくわく感」とは、わくわく感のある授業により得られる以下のようなものが例として挙げられる。

○各教科等や生活から得た知識や技能を活用・発揮し、問題解決に挑む「わくわく感」
○一人では解決できない問題も、他者との協働により解決できる「わくわく感」
○「分かる!」、「できる!」を体感できる「わくわく感」
○自分の思いや考えを存分に表現できる「わくわく感」
○疑問や不思議に思ったことを、とことん追究できる「わくわく感」
○外部機関や外部人材と協働することで、不可能を可能にする「わくわく感」
○個別の支援が充実し、全ての児童生徒が授業の主役になれる「わくわく感」
○自分の考えが変化したり深まったりする「わくわく感」　など

## 「わくわく感のある授業」とは

○「育成すべき資質・能力」が明確であり、その実現に向けた**授業改善(主体的・対話的で深い学び)と組織運営改善(カリキュラム・マネジメント)が相互に連動してつくり上げられる授業**
○主体的・対話的で深い学びに加え、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントと連動することで、資質・能力を一層確実に育成する授業

# 生徒指導の実践上の４つの視点

児童生徒の自発的、自律的、かつ他者の主体性を尊重しながら、
自らの行動を決断し、実行する「自己指導能力」を養う




### 4つの視点(1)
### 自己存在感の感受

「自分も一人の人間として大切にされている」という自己存在感の実感、「ありのままの自分を肯定的に捉える」自己肯定感、「他者のために役立った、認められた」という自己有用感を育みます。

### 4つの視点(2)
### 共感的な人間関係の育成

失敗を恐れない、間違いやできないことを笑わない、むしろ、なぜそう思ったのか、どうすればできるようになるのかを皆で考える支持的で創造的な学級づくりをします。

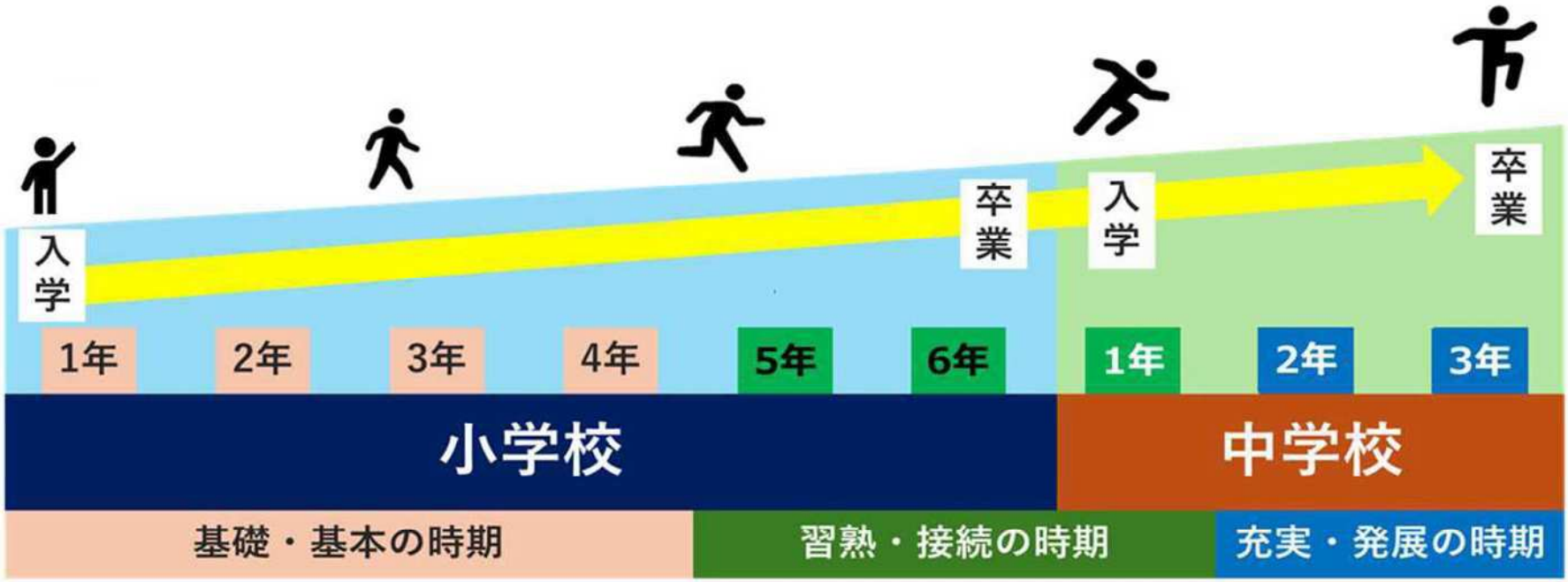
### 4つの視点(3)
### 自己決定の場の提供

自ら考え、選択し、決定する、発表する、制作する等の体験を通して自己指導能力を獲得します。自己決定の場を広げるためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が大切です。

### 4つの視点(4)
### 安全・安心な風土の醸成

お互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業や学校生活が送れるような風土を、教職員の支援の下で、児童生徒自らが作り上げるようにすることが大切です。

# ４－３－２制による小中一貫教育




## 基礎・基本の時期

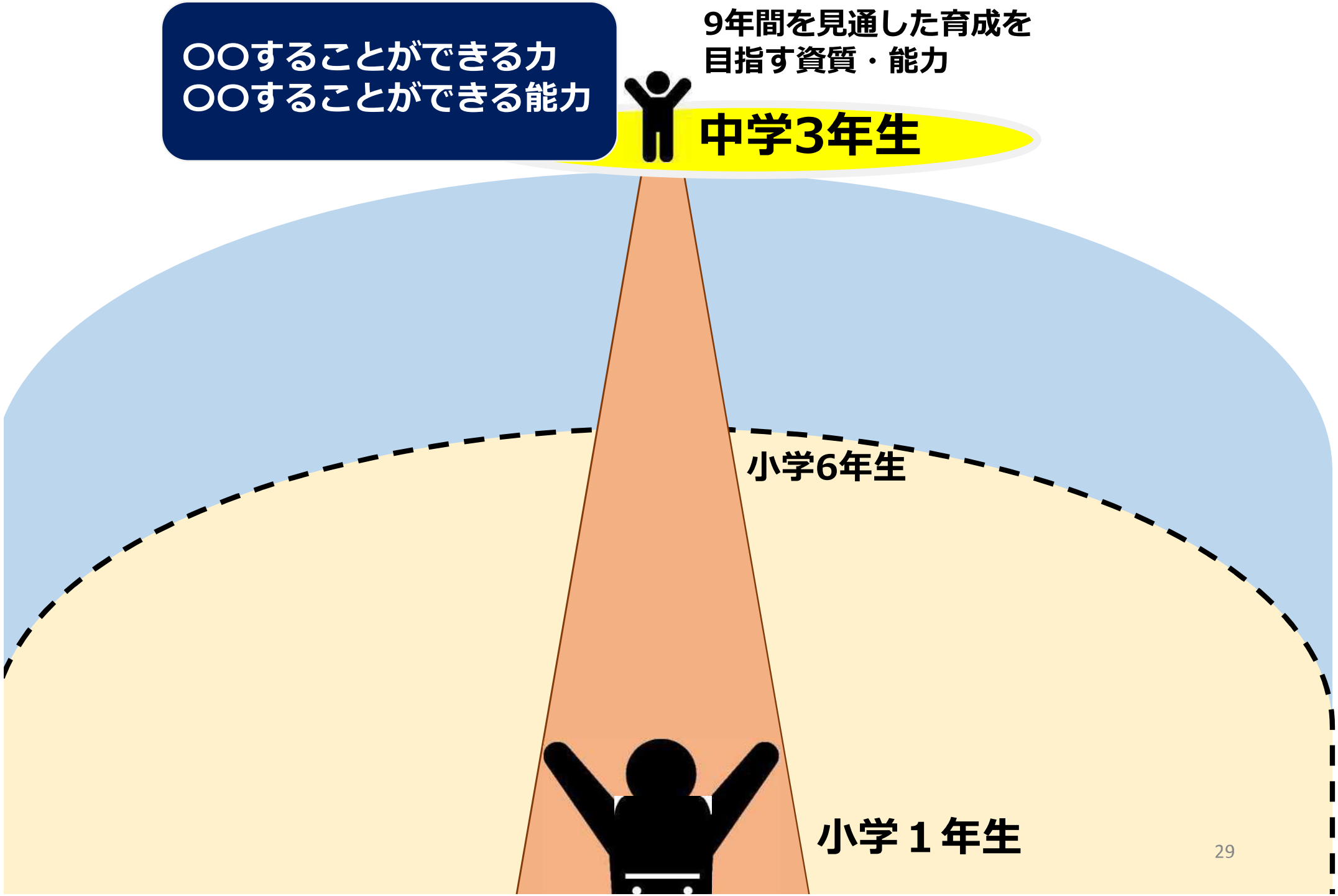
具体物を用いた思考を中心とした時期。反復学習や補習による基礎・基本の徹底、学習規律・生活規律の徹底、望ましい生活リズムの定着、家庭学習の習慣の定着、幼稚園や保育所等との円滑な接続　　など

## 習熟・接続の時期

具体物を用いた思考と抽象的・論理的な思考が混在している時期。予習する習慣の定着、主体的に学習に取り組む態度の育成、興味関心や自己評価に基づく学習課題の自己決定、メタ認知能力の育成　　など

## 充実・発展の時期

個性と能力のさらなる伸長、興味関心に応じた指導のさらなる充実、上級学校や外部人材を活用した発展的な学習の重視、進路選択を確実にする進路指導の充実など


〇〇することができる力
〇〇することができる能力
9年間を見通した育成を
目指す資質・能力
中学3年生
小学6年生
小学１年生


〇〇することができる力
〇〇することができる能力
9年間を見通した育成を
目指す資質・能力
中学3年生
2
中学２年生
▲▲することができる力
▲▲することができる能力
中学１年生
小学6年生
3
小学５年生
■■することができる力
■■することができる能力
小学４年生
小学３年生
4
小学２年生
小学１年生

# ４－３－２制による資質・能力の設定例

＜中学校区で身に付けさせたい資質・能力＞

◎主体的に学ぶ力　◆自分の考えを広げ、深める力　▽学びを活かす力

＜４－３－２制で身に付けさせたい資質・能力＞

小４の姿
◎学習の見通しをもって、意欲的に学習に取り組もうとする力
◆自分の意見や考えを持ち、それを基に友達と交流できる力
▽生活、総合的な学習の時間を中心に、他教科等で学んだことを生かす力

中１の姿
◎自分で学習目標を立て、計画・実行できる力
◆自分や他者の考えを多角的に捉えられる力
▽小学校での学びを各教科等で生かし、実生活に生かす力

中３の姿
◎自分の興味や課題をもとに、学びを進めようとする力
◆多様な考え方を吟味・検討し、筋道の通った結論を導き出す力
▽自分の生き方について、今までの学びを基により良くなる方向に考えられる力

# 共通のねらいと重点取組

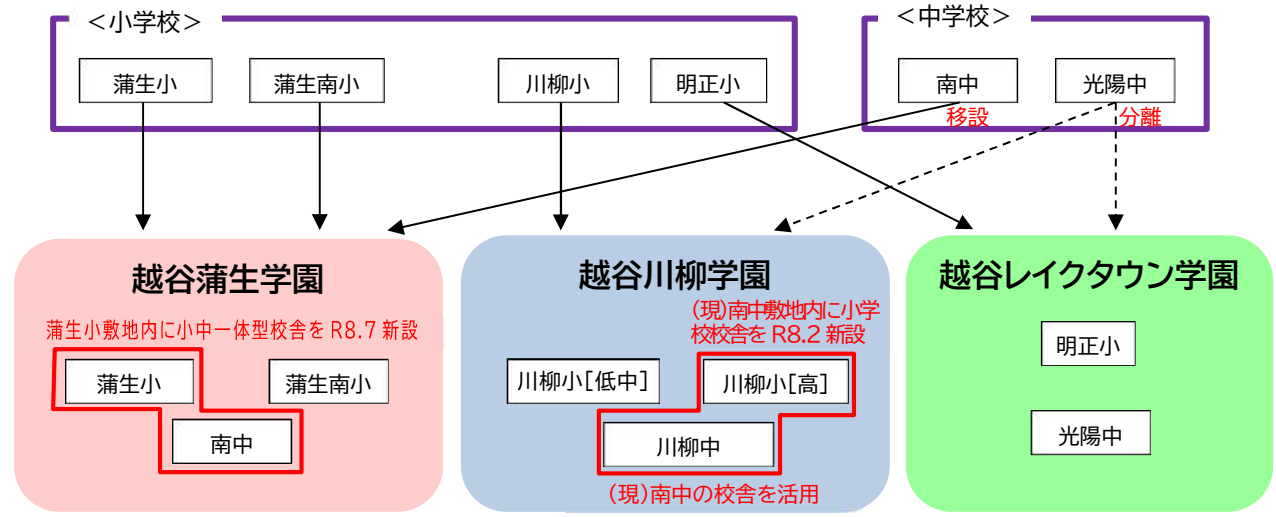
重点となる３つの取組の実践から、
全ての共通のねらいを達成します



# 越谷市小中一貫型小・中学校（小中一貫校）について

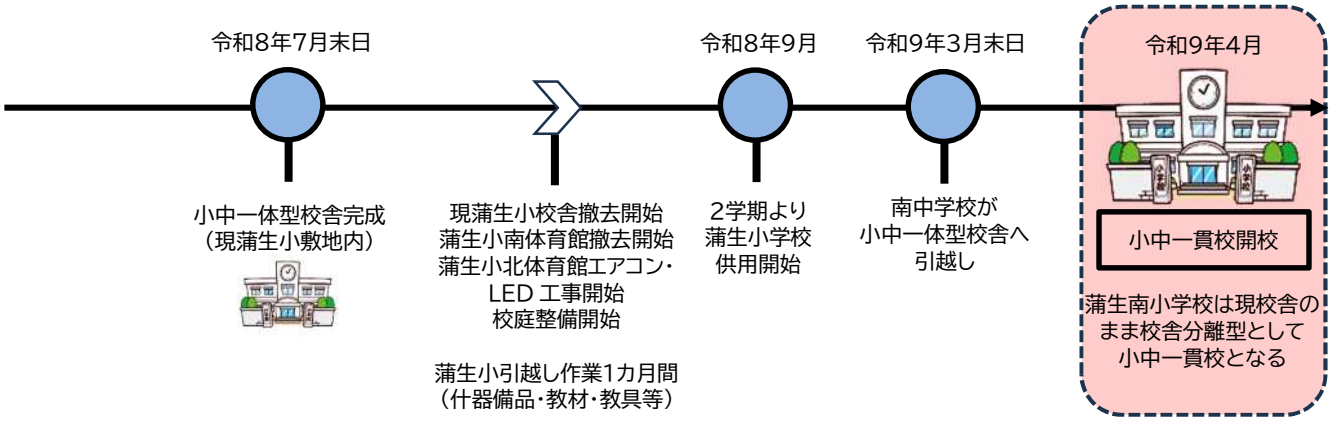
## 1．　小中一貫型小・中学校（小中一貫校）の構成

【令和９年４月より】

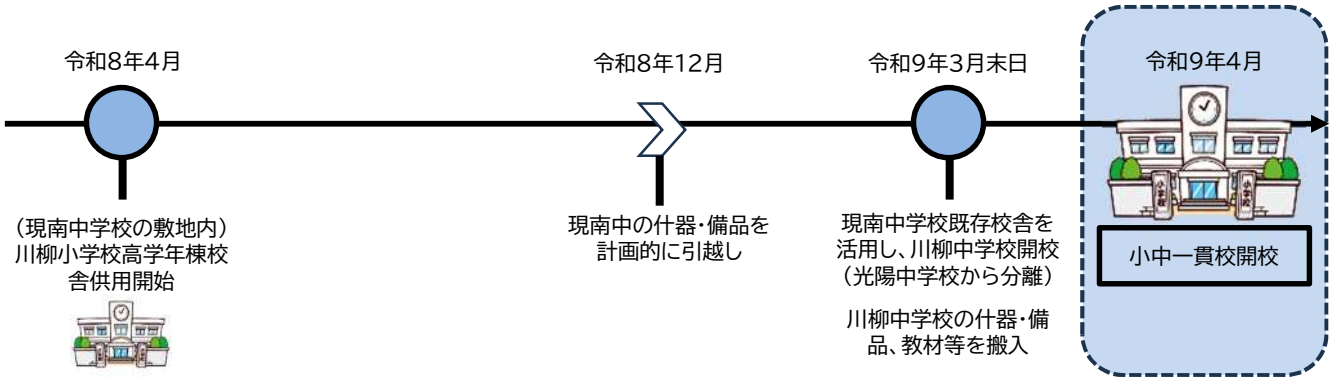



※ R4.4　(旧)蒲生小、(旧)蒲生第二小を合併　　※ [低中]小 1～4 年　[高]小 5,6 年

## 2．　越谷蒲生学園（蒲生小・蒲生南小・南中）校舎建設・引越しスケジュール




## 3．　越谷川柳学園（川柳小・川柳中）校舎建設・引越しスケジュール




## 4．　越谷レイクタウン学園（明正小・光陽中）校舎建設・引越しスケジュール

